

愛知医科大学 HIAMU

活 動 実 績 調 書

(1) 活動名	瀬戸の子どもたち！楽しみながらつながろう！！
(2) 活動の目的・成果（※何を目指し、何が成果として得られたかについて記載）	
<p>「楽しみながら人と人のつながりの大切さを感じ、新たな学びを発見すること」を目的に活動を実施しました。私たちは新型コロナウイルス感染拡大を乗り越えて、会いたい人にいつでも会えることの大切さを学びました。繋がらなければ、一人では楽しむことはできません。今年度は、皆で楽しみを共有しながら、様々な人との繋がりの大切さを感じ新たな学びを見つけてほしいと考え、愛知医科大学 HIAMU (Heart In Aichi Medical University) と愛知淑徳大学 CCC (Community Collaboration Center) が協力し企画を考えました。</p> <p>その結果、以下のような成果を得ることができました。</p> <ul style="list-style-type: none">子どもたちだけでなく、他大学の学生、交通児童遊園の職員さんともお互いに繋がり、協力して活動することができたため視野が広がりました。歳の離れた子どもたちが楽しんでくれるか不安な面もありましたが、皆が楽しんでくれたため、子どもたちとの関わり方に自身が持てました。また、子どもたちとコミュニケーションの取り方を学ぶこともできました。一方で、皆が楽しめるように一人一人に注意を向けながら接するのは難しいということがわかりました。介助犬の活動では、最初は介助犬の役割などを答えることができる子どもが少なかったが、ビンゴや実演を通して、最後はほとんどの子どもたちが答えることができるようになり、ただ学ぶよりも遊びを交えた方が楽しみながら学ぶことができると改めて感じました。子どもたちとのコミュニケーションを通して、皆それぞれ会話のテンションが異なり、楽しめる話題も異なることから、多様性を再認識しました。	
(3) 活動の実施内容（※活動の実施方法、時期、場所、回数、市民等への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	
<p>2023年8月5日（土）、2023年9月9日（土）、2024年1月14日（日）に、瀬戸市交通児童遊園で活動を実施しました。</p> <p>各回の前に両大学の学生間で対面打合せ又はオンラインミーティングを行い、リハーサルを行ったうえで活動に臨みました。</p> <p>① 活動日：2023年8月5日（土）13時00分～14時30分 「ボッチャを楽しもう！」</p> <p>開催場所：交通児童遊園 体育館</p> <p>参加者：小学生14名、学生スタッフ16名（HIAMU11名、CCC5名） 参考資料：記録写真、チラシ</p> <p>ボッチャは重度の脳性まひ者や同程度の重度障がい者が四肢にある人のためにヨーロッパで考案されたスポーツです。近年では障がいの有無に関わらず、老若男女、誰でも楽しむことができるスポーツとして注目されています。</p> <p>今回は交通児童遊園に隣接する体育館でボッチャを開催しました。ボッチャが初めての子どもたちもいたため、ルールや注意点を入念に説明し、投げる練習も複数回行いました。チームに分かれて試合を行い、楽しみ</p>	

ながらボッチャを知ってもらいました。子どもたちの夢中になって投げる姿や上手な投球をした際の盛り上がりが大変印象的でした。余った時間で保護者様にもボッチャを体験してもらい親子で楽しむことができました。参加後のアンケートでは、ほとんどの子どもたちがすごく楽しかったと回答してくれました。誰でも楽しむことができるというパラスポーツの意義を学んでもらえたのではないかと思います。

(開催内容)

- ・ 挨拶、注意事項説明
- ・ チームに分かれ自己紹介
- ・ 投げる練習
- ・ 試合（試合終了毎に水分補給）
- ・ 順位発表
- ・ ボッチャ体験（保護者様）
- ・ アンケート記入
- ・ 全体写真撮影

開催にあたり、打合せ及び合同練習（3月31日、6月28日、7月21日）を行いました。

② 活動日：2023年9月9日（土）「謎解きを楽しもう！」

開催場所：交通児童遊園

参加者：小学生15名、学生スタッフ8名（HIAMU7名、CCC1名） 参考資料：記録写真、チラシ

熱中症で倒れた職員を助けるという設定のもと、職員を助けるためのキーワードを見つけるため、子どもたちがチームで協力して謎を解き進めていきました。愛知医科大学と愛知淑徳大学の学生で作成した医療や熱中症に関わる問題を楽しみながら学んで解くことができました。参加してくれた全ての子どもたちに、謎を解き明かした証明として賞状を贈呈しました。

(開催内容)

- ・ 挨拶、自己紹介
- ・ 謎解き
- ・ アンケート記入
- ・ 全体写真

開催にあたり、打合せ及びリハーサル（4月25日、8月18日、9月6日、9月7日）を行いました。

③ 活動日：2024年1月14日（日）10時～11時30分 「介助犬と楽しく過ごそう！」

開催場所：交通児童遊園

参加者：小学生30名、学生スタッフ14名（HIAMU4名、CCC10名） 参考資料：記録写真、チラシ

介助犬の仕事や介助犬と一緒に暮らす方々の気持ちを学ぶための講座を実施しました。日本介助犬協会の職員をお招きし、実際に目の前で介助犬のデモンストレーションを行いました。体験後は、介助犬ビンゴや介助犬トランプで楽しみながら学んだことを復習しました。

(開催内容)

- ・ 挨拶
- ・ 介助犬、盲導犬、聴導犬の説明
- ・ 介助犬リーフレット作成

- ・ 介助犬デモンストラーション
- ・ 介助犬レクリエーション (介助犬ビンゴ、介助犬トランプ)
- ・ 感想カード記入
- ・ 全体写真

開催にあたり、打合せ (11月15日、12月7日) を行いました

<市民への周知方法>

- ・ 「広報せと」※1への掲載
- ・ 交通児童遊園でのチラシ配布
- ・ 瀬戸市内の小学校※2へのチラシ配布
- ・ ホームページ※3への掲載
- ・ SNS等※4への掲載

※1 交通児童遊園の掲載箇所での周知

※2 交通児童遊園が発行するチラシへの掲載

※3 交通児童遊園ホームページでの掲載

※4 交通児童遊園 Instagram での掲載

(4) 活動実施上の工夫 (※活動の趣旨・目的達成のため、特に創意工夫した点について記載)

子どもたちと楽しみながら繋がり大切さを感じ、新たな学びを発見するため、以下の点を工夫しました。

- ・ 子どもたちの学年を考慮して問題の難易度を考えたり、ふりがなを振って漢字を読めない子でも読めるように気を付けました。
また、子どもたちが喜ぶような制作物 (名札、パンフレットなど) を作成しました。
- ・ 子どもたちとのコミュニケーションは、同じ目線に立って話すこと (わかりやすい会話表現を用いるなど) を特に意識しました。
- ・ 活動していく中で、当日に急遽人数が増えるケースがあったため、それを事前に想定して、予備のものを準備するなど工夫しました。
- ・ 繋がりという点で、学年を敢えてバラバラにしてグループを組むことで、普段交流のない学年とも協力して仲良くなれるようにグループ編成を考えました。

(5) 活動実施上の反省点 (※具体的な反省点等について記載)

活動の中で、子どもたちとコミュニケーションを図ることの難しさや話を聞いてもらう時と実際に楽しんでもらう時のメリハリをつけることの難しさを実感しました。同じ目線で話すことを意識していたものの、いざ本番で子どもたちを目の前にした時、上手く話を展開できず、距離をあまり縮められなかった子もいました。今回、実際に大学の授業では学ぶことができないことを肌感覚で感じる事ができたことは大変勉強になりました。今後に向けて、子どもたちへの接し方について学生同士で意見交換をしたり、普段子どもたちと接している交通児童遊園の職員さんにも学びながら次に繋げていきたいと考えています。